

ひまわり

令和7年12月号

『テンツク テコ テンツク テコ バラバラ テコ テコ テン』(太鼓のリズムより)

校長 門脇 伸也

先日の11月29日（土）のひまわり祭に続き、12月12日（金）の道徳授業公開とたくさんの保護者及び御家族の皆様に御来校いただきましたこと御礼申し上げます。

25日（木）は終業式です。2学期最後まで、子どもたちには楽しく学びがいのある学校生活を過ごして欲しいと願っています。

さて、12月19日に和太鼓の演奏会を開催いたしました。これは近畿日本ツーリスト株式会社及びグループ会社で推進している学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)というものの1つです。この中から障がい者長崎打楽団「瑞宝太鼓」の皆様の和太鼓の演奏とワークショップに来ていただきました。

朝、子どもたちが登校する前、体育館から「ドーン、ドーン」と大きな太鼓の音が聞こえてきました。団員の皆様と挨拶を交わすと「昨日は新潟で演奏して、東京へ移動してきました。」「僕たちは、長崎の雲仙というところから来ました。長崎から新潟へ、そして東京へ飛行機に乗って移動するのは始めてです。今日、新宿養護学校の子どもたちと会うのを楽しみにしています」と挨拶が返ってきました。

演奏会に先立ち、子どもたちは太鼓のワークショップに参加しました。最初は戸惑っていた子どもたちも、団員の皆様の温かい指導を受け、大小の太鼓を叩き、例)テンツク テコ テンツク テコ バラバラ テコ テコ テン とリズムを奏でるうちに、体育館は笑顔と活気に満ち溢れました。私も大きな太鼓（平太鼓）を叩かせていただきましたが、腹の底まで響く音に、言葉では言い表せない感動を覚えました。

そして、団員の皆様の演奏会が始まり、まさに圧巻でした。演奏の途中で自己紹介があり、知的障害があることや「夢を諦めずにがんばろうと思いました」

「てんかんという病があります…」等々のわかりやすい言葉の中に悩みながらも、ひたむきに練習に打ち込む姿が伝わってきました。「希望し、努力し、感謝して生きる」をテーマに活動されている団員の皆様の演奏は力強く、そして優しく、完成度の高い演奏でした。本校の子どもたちの心に響いたものがあったと捉えております。

瑞宝太鼓は、文化庁や多々の企業、全国の支援者の皆様に支えられ、プロの太鼓集団として活動されています。今回の本校での演奏会にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

話は変わりますが、今流行っているのはインフルエンザA型と聞いております。先週の東京都の医療機関での定点観測結果では流行のピークは峠を越したと発表されました。が、残念なことに19日から21日まで中学部は、インフルエンザ感染症予防のため学部閉鎖としました。改めて、教職員と保護者の皆様及び関係機関の皆様とで、年末年始の感染症予防対策は適切に行い、全員で良い年を迎えてく存じます。益々寒さが増してきます。皆様ご自愛ください。



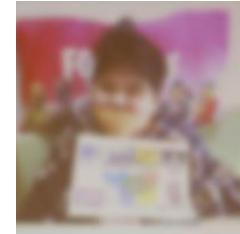
「ひまわり祭を終えて」

11月29日(土)に、第25回ひまわり祭を行いました。「ステージに咲かせよう 輝く笑顔とひまわりの花」をスローガンに、子どもたち一人ひとりが自分の課題に取り組み、発表しました。

練習では、友達や教員の声掛けに励まされながら、「できた」「伝わった」という体験を積み重ね、少しづつ自信を深めていきました。本番前には、リハーサルとして児童・生徒が他のグループ、学部の演目を鑑賞する機会を設けました。友達が課題に取り組んでいる姿に声援を送ったり、拍手をしたりする姿に心が温まりました。

当日は、朝から子どもたちの笑顔が多く見られました。また、どの子どもからも「やり遂げたい」「伝えたい」という思いが感じられ、子どもたちの姿がとても輝いて見えました。

子どもたちが積み重ねてきた努力と成長が、確かな形となって表れたひまわり祭となりました。多くの保護者の皆様に御鑑賞いただき、温かい拍手と励ましの言葉をいただきましたことに、感謝申し上げます。今後も子供たち一人ひとりの可能性を大切にしながら、成長を支えてまいります。



「道徳授業公開」

12月12日(金)に道徳授業公開を行いました。平日にも関わらず、多くの保護者・御家族の方にご参観いただきました。今年度も児童・生徒の実態を考慮し、各学年・学部ごとに題材(テーマ)を設定して指導計画を作成し、授業を実施しました。当日は、小学部低学年は思いやりや友達との関わりについて、中学年は生命の大切さについて、高学年は家庭での手伝いや家族との関わりについて、中学部は人とのコミュニケーションについての授業を行いました。それぞれの学年や実態に応じて授業者による教材や指導の工夫がなされ、子どもたちもいきいきと活動に取り組んでいました。本校に通う子どもたちがより良く生きるための道徳性を養えるよう、今後とも研鑽を重ねてまいります。



研究部より

「校内研修について」

11月7日(金)・11日(火)と12月2日(火)に、自立活動研修会を行いました。文教大学より講師をお招きして、御指導・御助言をいただきました。

今回は、教員が児童・生徒と自立活動の学習を行っている指導場面を見ていただきながら、新たな知見や指導のポイントを教えていただきました。具体的には、「立位姿勢の時に、腰が引いていないか」、「立ち上がる動作をする時に、足をどのくらい開いているのか」など、児童・生徒の一つひとつの身体の動きを見取って、教員の支援・指導の方法を学びました。また、児童・生徒の活動の様子をビデオに撮り、教員間でビデオを見返しながら身体の動きを観察することで、これまで気付いていなかった動きを発見することもありました。実は、「立っている時につま先が浮いて踵に重心をかけていた」、「立っている時に、顎が上がって斜め上を向いていることが多いようだ」など、ビデオを通して様々な角度から客観的に実態把握をすることができました。今後も、教員間で検討を重ねながら、児童・生徒のより良い自立活動の指導に努めています。

